

伝統的工芸品大島紬をデザインした クールビズシャツの考案 — 商品化に向けた地域貢献の取り組み —

西之園君子・濱崎千鶴・宮地真奈美

1. 緒言

鹿児島県の伝統工芸品「大島紬」は、世界でも類を見ない緻密な緋織物として名声を博し、世界の3大織物の1つに挙げられている。しかし、現代では生活の洋風化に伴い、若者の着物離れは加速し、洋装が定着してきている。このために2003年から大島紬の活性化・普及を図るために、今日のファッションリーダーである若い学生たちの柔軟な発想と独創性を生かした洋装製作や服飾品・小物の製作に取り組んできた。

クールビズシャツは2005年、環境省¹が夏場の軽装による省エネ対策として推奨し、官公庁や企業でも認知され定着している。本年度は大島紬を生かしたクールビズシャツを考案、デザインし製作に取り組むことにした。

2. 研究方法

(1) アンケート調査実施

長い歴史と先人たちの美意識と高度の技によって織られた存在感のある大島紬を身近に感じ、ビジネス等の場面でも着用してほしいと考え、今回は鹿児島県庁及び市役所職員、銀行員、ホテル従業員にアンケート調査票を依頼し、2週間後に回収した。アンケート調査人数は下記に示すとおりである。

対象者	公務員（県庁、市役所）	男性	71名、女性	63名
	銀行員	男性	30名、女性	30名
	ホテル従業員	男性	24名、女性	25名

想林第9号

小計	男性125名、女性 118名
合計	243名

調査期間 平成28年12月初旬～月末まで

回収率 100%

(2) アンケート調査内容

- 1) 大島紬の周知状況
- 2) 大島紬の和服・洋服・服飾品等の所持品
- 3) 大島紬を着用する場面
- 4) 大島紬の性能・難題
- 5) 好みのクールビズシャツの布地・色相
- 6) クールビズシャツに求める性能
- 7) 好みの襟の形
- 8) 袖の形（女性のみ）
- 9) 大島紬好みの緋文様
- 10) 大島紬の好みの色合い
- 11) 大島紬の好みの色調
- 12) 大島紬をデザインしたいパーツ（部分）

(3) アンケート調査の統計処理

データの解析にはエクセルを用い男女別に集計して統計処理を行い、グラフ化して分析した。

(4) 市場で売れているシャツの聞き取り調査

(5) シャツの製作工程

(6) シャツの洗濯実験 寸法変化率はJIS C 9606法で実施し、色落ちの状態を調べる

シャツ地素材（綿50%、ポリエステル50% 混紡）と大島紬（絹100%）の異素材を用いた製品の寸法変化および色落ち状態

(7) 被験者による試着評価

平成29年11月 鹿児島県庁、市役所、銀行、ホテルの男女各2名、試着後評価していただく。

3. 結果と考察

アンケート調査結果

アンケートの回答は男性125名、女性118名、合計243名 ※ なお、未回答者は省く

図1の円グラフに示すように40歳代が37%で最も多く、次が30歳代

伝統的工芸品大島紬をデザインしたクールビズシャツの考案

24%、50歳代18%、20歳代11%、60歳代10%の順で30～40歳代の中堅層の回答が最も多かった。

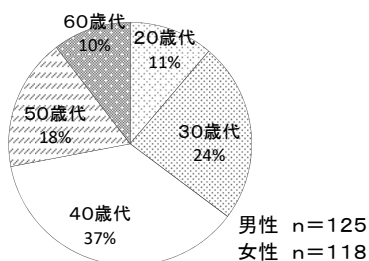


図1. 年代別割合

1) 大島紬の周知度について

大島紬をどの程度、知っているかという問いについては、図2のグラフに示すように、ある程度知っている73%、知らない19%、良く知っている8%である。この結果からある程度周知されていることが分かる。理由として大島紬は鹿児島の伝統的工芸品であることや鹿児島県の広報活動や多彩な文化的催しなどが開催されているためと考える。ある程度知っている割合は男女別に比較するとほぼ同じである。

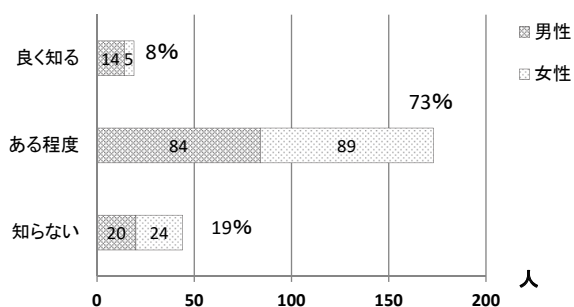


図2. 大島紬の周知状況

2) 大島紬の和服・洋服・服飾品等の所持品について

①和服を所持している割合

大島紬の和服と洋服の所持とその衣服について、図3に示すように大島紬のきものを所持している割合は11%、持っていない割合は86%であることから、多くの人は所持していないと言える。着物以外の衣服は羽織、袴、半天、ショールが1%程度であった。

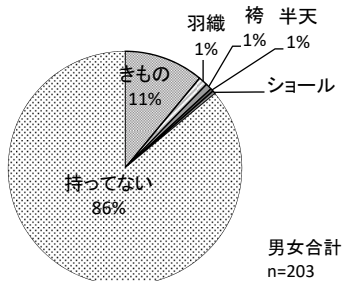


図3. 大島紬の和服を所持している割合

②大島紬の洋服を所持している割合

大島紬の洋服については図4の円グラフのとおりで、所持していない割合は79%であるが、19%はワイシャツ、ブラウスを所持している。

これは、現在、綿100%形態安定加工されたシャツ地に大島紬をコラボしたシャツが商品化されて鹿児島シャツとして市場で販売されているからだと思われる。また、鹿児島銀行ではこのシャツを制服として着用している。他にベスト、ジャケット、コート、ワンピースドレス等があげられた。

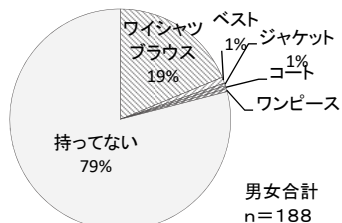
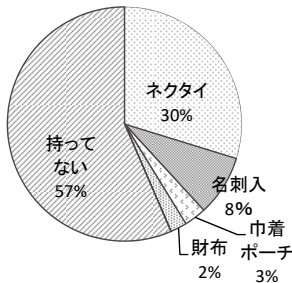


図4. 大島紬の洋服を所持している割合

③大島紬の服飾・小物の所持品

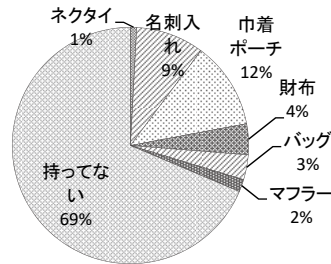
大島紬の装飾品、小物の所持については衣服類に比べるとかなり用いられている。

男女別に比べると図5、図6に示すように男性はネクタイが30%で多く、女性はポーチ・巾着12%、財布、バッグ合わせると7%の順である。名刺入れは男女とも8～9%で同じぐらい所持している。小物類は値段が手ごろであるためと鹿児島の特産品として親しまれているためと察する。



男性 n=74

図5. 服飾・小物の所持品



女性 n=81

図6. 服飾・小物の所持品

3) 大島紬の着用場面

大島紬を着用する場面として、男性は図7に示すように63%が仕事の場面で最も多い。これは職場で高山 CHOYA ソーイング社が製作した鹿児島シャツを着用しているためと推察する。一方、女性はおしゃれ、または趣味で着用するが14%で、フォーマルとしては12%と少ない。紬の始まりは古く手引きの真綿糸を用いて織られ、糸が太くて節があり、ざっくりして光沢も少ない。このために丈夫であることから日常着や野良着として自家生産されたものである。このことから材質が絹であっても正装用には用いられてはならないという和装着用の習慣²が伝承しているためと考える。

現代では消費者の用途も多様化、個性化して、豊かなファッションが楽しめるようになってきている。進化している時代の変化に柔軟に対応していくことが必要ではないかと考える。

想林第9号

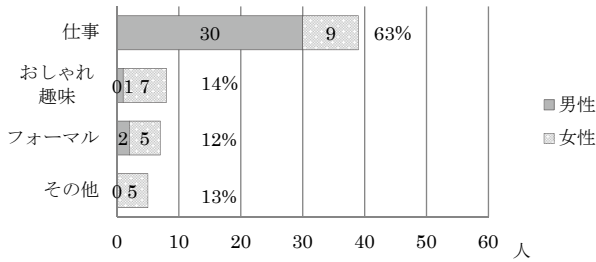


図7. 大島紬の着用面

4) 大島紬の性能評価

大島紬の反物に対する性能は図8に示すように一番優れている性能は男女ともに軽いことをあげている。次に男性色合いについて、素朴・渋いというイメージを抱いているのに対し、女性は一概に渋いとは言えない結果である。それは現在、新しい感覚を取り入れた多彩な色大島紬や華やかな白大島紬が織られ、普及していることが考えられる。

3位以下はしなやか、精緻な緋、皺になりにくい等の順である。大島紬の優れた性能は軽くてしなやかな着心地と独特の渋い色合い、緻密な文様が特徴といえる。

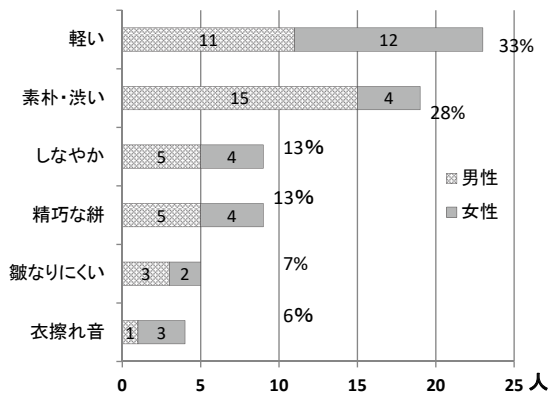


図8. 大島紬の性能評価 (複数回答)

大島紬の難題として最も多いのは図9に示すように価格が高いことを

あげているが、中でも男性が多い。男性は2) のアンケートの結果、和服を所持している割合は約11%で少ない。このために大島紬の真価を実感した回答であるのではなく、一般的に高いと言われていることに追随しているのではないかと察する。女性の所持している割合は22%であった。価格については非常に抵抗感が強いことが理解できる。

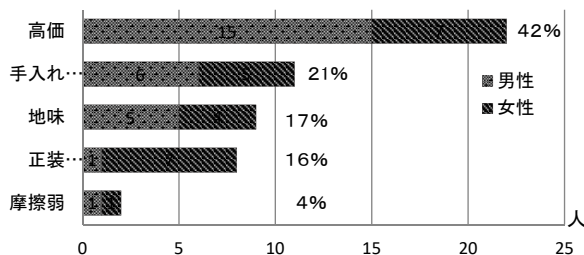


図9. 大島紬の難題 (複数回答)

一方、女性は大島紬が正装として着用できないことで着ていける場所が少なく制限されていることが問題である。次に手入れが難しい、地味な感じ、摩擦に弱い順となっている。地味については若い人たちには抵抗があると言える半面、年齢が高くなると落ち着いた色合いを好むために年齢や好みによる違いもあると言える。絹の弱点である摩擦に弱い理由は繊維の太さが平均2.8デニールで極めて細いためである。人間の髪の毛の太さは50～60デニールであることから、いかに細い繊維であるか理解できる。この難題は現代の科学技術の進歩によって2015年、絹糸³の擦れ防止加工が開発されワイシャツに実用化されている。

5) クールビズシャツについて

① クールビズシャツの地色の好みについて

男性、女性共に図10に示すように白色が最も多く男性46%、女性48%、2位は薄い青色で男性45%、女性32%、3位は薄い桃色で男性8%、女性20%である。白色は男女間に性差は殆どないが薄い青は男性が多く、桃色は図11に示すように女性が多い。このことから男性はクール系の青色、女性は優しいピンク系の色を好む傾向が見られる。

なお、市場調査の結果によると年輩者はグレーの色を好む方が多いことから汎用性の高い色として受け入れられていると察する。

想林第9号

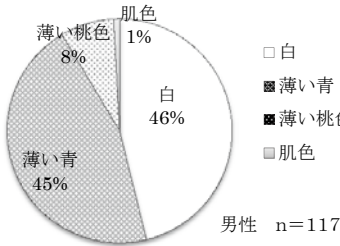


図10. シャツ地の色相（男性）

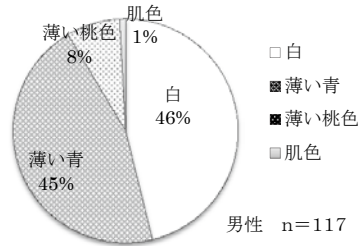


図11. シャツ地の色相（女性）

②クールビズシャツ地の織柄について

織柄の有無について、図12に示すようにある方が良い32%、ない方が良い約34%、どちらでもよい34%で特に柄に対するこだわりはないと言える。

市場調査による聞き取りでは織柄がある方が売れ、特にストライプは売れているということであった。平織よりも模様のある布地が変化があり高級に見えるのではないかと察する。

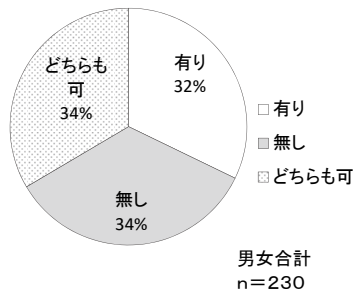


図12. シャツ地の織柄

6) クールビズシャツに求める性能について

シャツに要求する性能で最も多いのは図13に示すように通気性、次が皺になりにくい、3位以下は手入れが簡単である、清涼感、肌触り、吸湿性の順である。夏の高温、多湿の気候では蒸し暑く不快に感じるため、通気性が要求される要因である。また発汗などにより肌等がかぶれやすい等保健衛生的にも好ましくないことやシャツは毎日のように洗濯が必要なことから皺にならない手入れの簡単なものを要望している。また、

女性は洗濯後のアイロン掛けをすることが多いことから男性よりも手入れが容易であることを望んでいる。

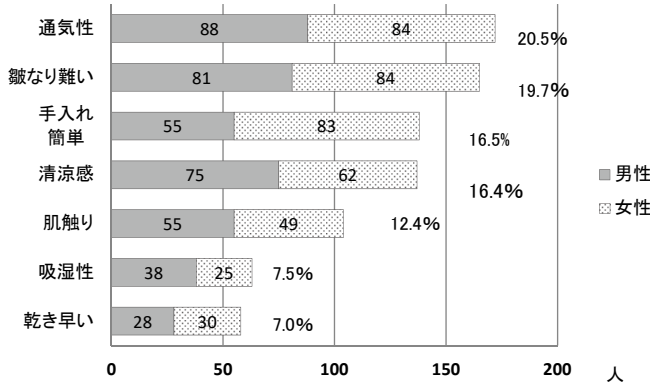


図13. クールビズシャツに求める性能（複数回答）

7) シャツ襟の好ましいデザインについて

襟の好ましい形として男性は図14に示すようにボタンダウンが55%で最も多く、次がレギュラーカラー33%、3位以下はオープンカラー、マオカラー、スタンドカラーの順である。

ボタンダウンが好まれているのはネクタイをしなくても襟の形が崩れにくいのではないかと察する。なお、現在、30～40歳代に人気がある襟は襟先の開きが大きいワイドカラーであることからサンプルを製作し、試着評価を試みた。市場調査では50～60歳代はボタンダウンが好まれているとのことだった。

女性の場合は図15に示すようにステンカラーとスキッパーカラーが最も多く24%、ついでレギュラーカラー18%、3位以下はクロバー、オープン、マオカラーの順である。ステンカラーはポピュラーな襟であること、スキッパーカラーは襟元がすっきりして窮屈な感じを与えないことが考えられる。

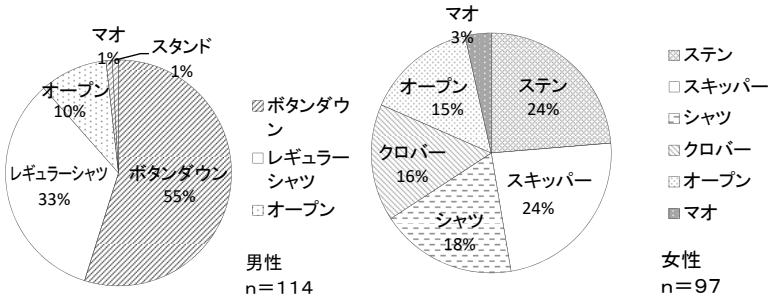


図14. 好ましい襟のデザイン (男性) 図15. 好ましい襟のデザイン (女性)

8) 女性の袖のデザイン

女性の袖のディテールは多種類ある中で最も好まれるのは図16に示すようにセットインスリーブ38%、次がタグドスリーブ26%、3位以下はウインド、ペタル、パフスリーブの順である。

このことから最も基本的なセットインスリーブを好むことが分かった。

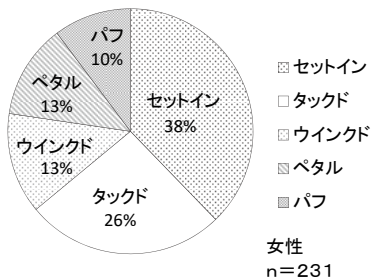


図16. 袖のデザイン

9) クールビズシャツに好ましい大島紬の文様

大島紬をクールビズに取り入れる文様として好ましい文様では男性は図17に示すように伝統文様が最も多く63%、次が幾何学文様30%、3位は花・動植物の順であった。女性は幾何学文様が最も好まれ43%、次が伝統文様39%、花・動植物の順である。男性は存在感のある有名な西郷柄、有馬柄、亀甲柄等の緻密な細かい柄に好感を抱いている。女性は図

18に示すようにシンプルな幾何学や伝統文様に好感を抱いている。伝統文様の龍郷柄は奄美を代表するソテツの葉と実、ハブ等を表現したもので女性に人気がある柄である。

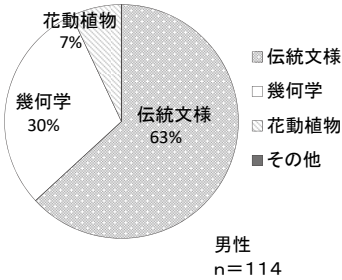


図17. 大島紬の好ましい文様（男性）

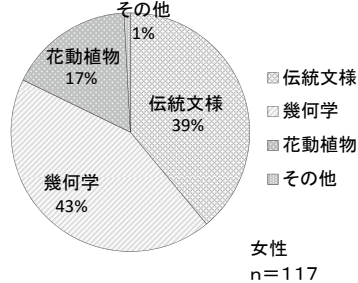


図18. 大島紬の好ましい文様（女性）

10) 大島紬に関する好みの色合いについて

図19に示すように男女共に紺・青系統が最も多く、次が黒系統、3位に男性は茶・焦げ茶系統、女性は紫系統となっている。

男性が紺・青系統を好む理由は室町時代から武士が戦いに挑む時、鎧の下につける直垂は褐色（藍色を濃く染めた紺色）を勝色と読み、男性に好まれているのではないかと察する。

現在、外国人は藍色をサムライブルーとも呼び日本人の好む色として定着している。

3位は男性は茶・焦げ茶であるが女性は紫系統になっている。これは男性が淡い、落ち着いた色合いを好む傾向があるのに対し、女性は淡く地味な色合い以外に多様な色合いに共感するためと察する。

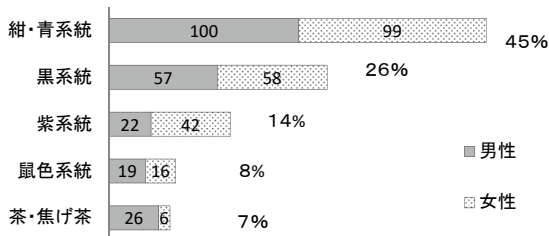


図19. 好みの色合い（2つ選択）

11) 大島紬に対する好みの色調について

男性は図20に示すように明度の低い落ち着いた色調が最も多く53%、次が淡い29%、3位以下は渋い、鮮やかな順である。一方女性は図21に示すようにパステルカラーの淡い色40%、次が落ち着いた38%で3位以下は渋い、鮮やかな順である。男性は明度の低い落ち着いた色合いを好むのに対し、女性は明度の高い淡い色を好む傾向が見られる。これは男性と女性の違いによる結果ではないかと察する。

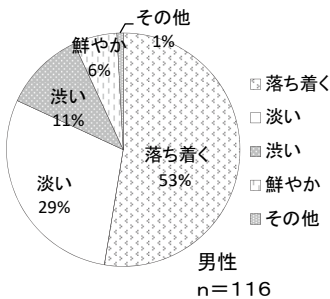


図20. 大島紬好みの色調 (男性)

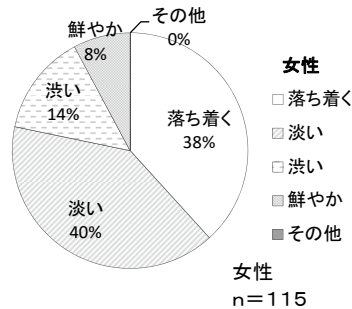


図21. 大島紬好みの色調 (女性)

12) シャツに大島紬をデザインしたい部分

男性、女性を合わせると最も用いたい部位は図22に示すように前立てと襟の部分29%、前立てのみ29%で多い、この他の部分として袖口、裾、前見ごろの一部分に横ラインの紬、縦ラインの紬を入れるなど、わずかではあるがあげられていた。このことからシンプルなデザインのクールビズシャツを望んでいることが分かった。大島紬の面積が多いと野暮ったく感じることにしやすいと察する。

今回は襟と前立ての部分に用いることにした。

伝統的工芸品大島紬をデザインしたクールビズシャツの考案

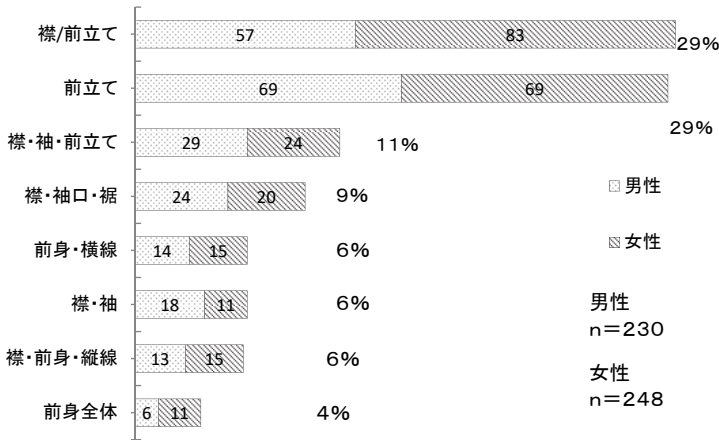


図22. 大島紬をデザインしたい部分（2つ選択）

(3) シャツについての市場調査結果

- 1) 売れている襟の形：ボタンダウンカラー、ワイドカラー
- 2) 年代別による襟の好み：30～40歳代はワイドカラー、50～60歳代はボタンダウンカラー
- 3) 素材 形態記憶加工の素材：綿50%とポリエステル50%の混紡
- 4) 素材で売れている織柄有無：織柄入りが売れている
- 5) よく売れている色：ブルー、白、グレーは年配者に多い
- 6) 売れている価格帯：6,000円～8,000円代（百貨店）

(4) クールビズシャツの製作について

アンケート調査結果と市場調査を参考にしてデザインを検討し製作する

- 1) 素材：吸湿性が良く手入れしやすいことを考慮 綿50%とポリエステル50%混紡
- 2) 素材の色：光を反射する涼しい白色、大島紬には無彩色の白が合わせやすいことも考慮
- 3) 芯地：男性用 綿100%
女子用 ポリエステル100%

想林第9号

- 4) 材質の織柄：縞、格子、鱗、格子などの細かい織柄入り
- 5) サイズ：男性 M、Lサイズ 女性 Mサイズ
- 6) 襟の形：男性 レギュラー、ボタンダウン、ワイドの3タイプ、
女性 レギュラー、ステン、スキッパーの3タイプ
- 7) 大島紬を用いる部位：襟と前立て
なお、女性は襟元にリボンを装飾
- 8) シャツのサンプルの製作について
男性 襟の形状 レギュラー、ボタンダウン、ワイドの3タイプ、
シャツ専門店へ委託する
女性 襟の形状 レギュラー、ステン、スキッパーの3タイプ
女性用は襟の形や大きさを検討するためにサンプルを試作し縫製を委託する

(5) シャツの洗濯実験

1) 洗濯実験

- | | |
|---------|--|
| 洗濯方法 | JIS C 9606 ⁴ の規定に準じて実施 |
| | 遠心式脱水装置式家庭用電気洗濯機使用 |
| 洗濯用合成洗剤 | JIS K 3371 ⁵ に準ずる |
| 洗濯液の浴比 | 1：30の割合 |
| 洗濯工程 | 40℃に液温で5分洗濯→脱水→30℃以下の水で2分間すすぎ洗い→脱水→再度同じようにすすぐ→脱水→吊り干 |
| アイロン仕上げ | JIS C 9203 ⁶ の規定に準じ家庭用自動温度調節器付ドライアイロンで処理 |

女性用泥藍染めシャツ洗濯



図23. 洗濯状態

2回目のすすぎ

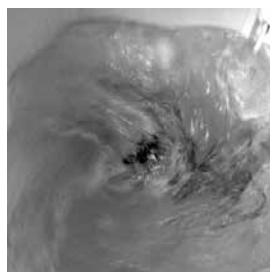


図24. すすぎの状態

洗濯液の回転中は泡が立ち、少し液の色が濁る

藍色の襟が見える、すすぎ後は泡がとれ濁りは消え、液は不透明な色合いから透明になる

男性用泥大島シャツ洗濯



図25. 洗濯状態

2回目のすすぎ

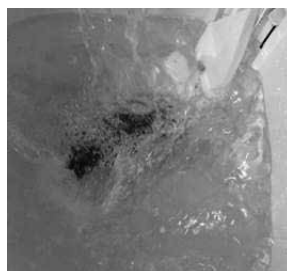


図26. すすぎの状態

洗濯液の回転中は泡が立ち、少し液の色が濁る

すすぎでは泡と濁りは消え、液は不透明な色合いから透明になる

2) 洗濯実験による寸法変化、外観変化について

寸法変化を調べるために、洗濯前にシャツの形を広幅用紙に輪郭を記す

洗濯とアイロン仕上げを終えたシャツを洗濯前の輪郭に重ねて寸法変化を比較する

洗濯前 男性用(マジックで記す)



図27. シャツの原型 (男性)

洗濯後 男性用 シャツを重ねる



図28. 洗濯後のシャツ (男性)

洗濯前 女性用(マジックで記す)



図29. シャツの原型 (女性)

洗濯後 女性用 シャツを重ねる



図30. 洗濯後のシャツ (女性)

団法人日本繊維製品品質技術センターの基準値⁷より判定する

洗濯後寸法変化率の許容範囲 $\pm 4\%$ 以下 伸び $[+]$ 縮み $[-]$

男性のクールビスシャツの寸法変化は次のような伸び縮みがあった。

女性のシャツは変化がなかった。

- 1) 脇丈 実寸43cm
-0.7cm (右) (1.6%) +0.2cm (前中心) 0.4%
- 2) 袖丈実寸22.5cm -0.5cm (1.9%)
- 3) 袖幅 変化なし
- 4) 胸幅 変化なし
- 5) ウエスト幅 変化なし
- 6) 胴幅 変化なし
- 7) 衿ぐり寸法実寸39.5cm 実寸 +0.3cm (0.7%)
- 8) 前立て63cm 実寸 +0.1cm (0.2%)

以上の寸法変化率実験結果からの伸び、縮みの変化は許容範囲内であり問題がないことが判明した。

次に色落ちについては写真の通り、白いシャツ地に色が滲んでいないことから色止めの加工がされていることが分かった。また外観変化として縫い縮みや絹とシャツ地の伸縮等の違いによるツレもなかった。

(5) シャツの試着評価

好きな襟と柄のシャツを試着し感想と意見を聞く

男性の襟の形はレギュラー、ボタンダウン、ワイドの3タイプ、
大島紬は藍系統の西郷柄と亀甲柄、泥染めこげ茶系統 麻の葉、格子柄 4柄

女性の襟の形はステンカラー、スキPPERカラー、シャツカラーの3タイプ

大島紬は泥染めの龍郷柄、花柄の白大島、藍染の麻の葉模様

1) 男性の評価

素材は綿50%とポリエステル50%の混紡

評価の結果について下記のような意見や感想が挙げられた。

①サンプルの中で着たいシャツを選んだ理由

小柄でシンプルな幾何学模様が好み、色合いは夏らしく涼しく感じられ、清潔感と上品さも判断のポイントとなっている。また襟の形は流行しているシャツであることや有名な西郷隆盛にちなんだネームに惹かれた。

②着心地について

素材感として厚めで型崩れしない、涼しく感じられる季節感、サラッとしている肌触りなどが良い。また後ろ身ごろをシェイプしているシャツも良い。

③シャツについての意見や要望

襟は大島紬を用いたものと用いないもの、シャツ地が薄い、厚めのものの、大島紬の色合いは濃いものと薄めのあるとよい等、個人差が大きいといえる。またデザイン性は優れているが洗濯した後の大島紬とシャツ地の不釣り合いや縫いづれを改善して欲しい。

2) 女性の評価

①好きなシャツを選んだ理由

花柄やかわいい柄が好みである、龍郷柄は大島紬らしさがはっきりしている、襟の形は開いたタイプが好きである。

②着心地について

軽くサラサラした素材感、柔らかい肌触り、涼しい季節感などがよい。

また襟元は女性にとって着心地と個性らしさがポイントとなり多様なタイプが好まれると考える

③シャツについての意見や要望

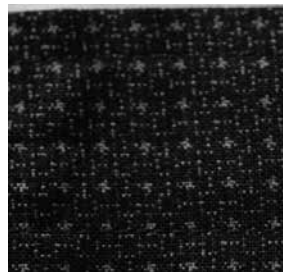
女子は襟元のポイントにリボンやボータイがあると華やかさがあって好まれることが示唆された。さらにシャツ地は白一色でなく他の色も着てみたい、他の柄も欲しいなど。色や柄について関心が高いことやシャツを洗濯した時に色落ちしないか気になる等の手入れについての意見。

日ごろ、大島紬を着る機会はないが、今回試着して大島紬の魅力を感じ興味を抱いた。

男性クールビズシャツ



ワイドカラー

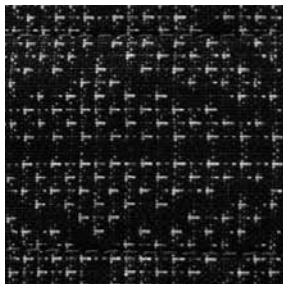


亀甲柄

伝統的工芸品大島紬をデザインしたクールビズシャツの考案



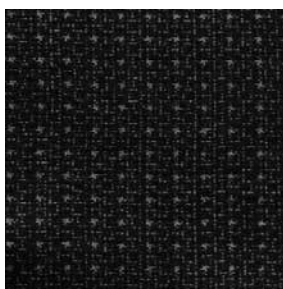
ボタンダウンカラー



麻の葉



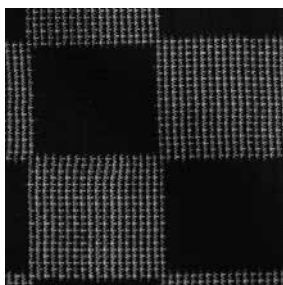
レギュラーカラー



西郷柄



ボタンダウンカラー



格子柄

女性用クールビズシャツ



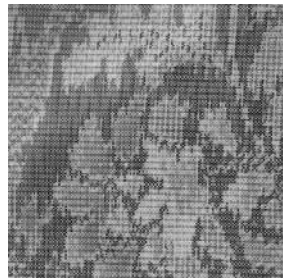
レギュラーシャツ



白大島（花柄）



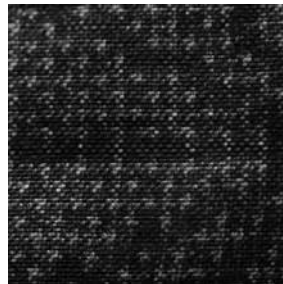
レギュラーカラー



白大島（花柄）



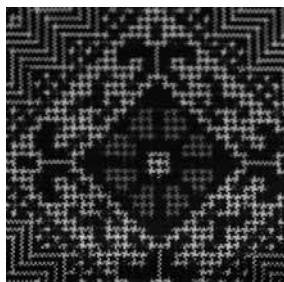
スキッパーカラー



麻の葉



ステンカラー



龍郷柄

5. 総括

伝統工芸品大島紬の活性化・普及を図るために、大島紬を部分的に用いたクールビズシャツをデザインし、製作した。まず、クールビズシャツを製作するにあたりアンケート調査を実施、このデータを分析すると下記のような知見を得ることができた。

1. 戦後の生活スタイルの洋装化に伴い、日本古来のきもの文化は衰退し、きものを所持している割合が極めて少ないことから、今後、きものとしての需要は厳しいのではないかと察する。しかし、洋装のシャツやネクタイ、財布、名刺入れ等の服飾品、小物類は商品開発によって需要があると考えられる。
2. 大島紬は絹であり、高度な技と長い時間をかけて作られ、繊細な文様を織り出した高級織物であるのに、フォーマルな場面では着装できないという和装衣服着用の習慣が伝承しているため、着用する場面が限定されている。現代では消費者のニーズは多様化、個性化していることから時代の進化に合わせ柔軟に対応していく必要があると考える。
3. 従来、大島紬は高価であるということが取り上げられ、価格に対する抵抗感が大きい。伝統工芸品の作り手は生産者の論理で製品を作るのではなく消費者、生活者のニーズを把握するために消費者との対話を重ね、適正な販売価格を設定できる効率的な販売流通システムの改革が必要と考える。
4. クールビズのシャツ地の色は男性、女性ともに白が最も多かった。

次が男性、女性ともに薄い水色が多かったが特に男性が多かった。

3位は桃色であったが女性が多かった。男性は清潔感のあるクールな色を好むのに対し、女性は優しい色を好む傾向が見られた。

大島紬の色調については、男性は明度の低い落ち着いた色を好み、女性は明度の高いパステル系の色を好む傾向が見られた。色合いと色調については男性と女性によって違いがあるといえる。

5. クールビズシャツに大島紬を部分的に使いたい部位は、襟と前立ての部分と前立てのみが多かった。他に袖や裾、前身ごろの一部分に入りたいという意見もあったが割合としては少なかった。このことからシンプルなデザインを好んでいることが分かった。
6. クールビズシャツに対する要望として、夏の蒸し暑い気候に対処するために通気性、清涼感、肌触り、吸湿性に関する順である。汗を吸収する綿素材と皺になりぬくいポリエステル混紡の素材がよいといえる。
7. クールビズシャツは顔に近い襟が目につきやすい。男性はボタンダウンウンが最も多く、次がレギュラーカラーであった。現在、流行しているワイドカラーも市場調査で人気があることが分かった。ボタンダウンカラーが好まれる理由はネクタイなしでも襟が崩れにくいためと思われる。女性はステンカラーとスキPPERカラーが最も多く、スキPPERカラーは襟もとがすっきりして窮屈感がないためと思われる。
8. クールビズシャツの洗濯実験は JIS 規格に基づいて実施した。大島紬とシャツ地との組み合わせによる収縮の変化率は男性で少し見られたが許容値の範囲内であった。女性は収縮の変化はなく、色落ちもなかった。大島紬は色落ちの加工処理がされていることから問題はないといえる。
9. クービズシャツの試着評価として男性は夏らしい色合い、素材の着心地の良さ、清潔感、デザイン性（上品）、伝統文様の魅力等に満足する評価だった。しかし、洗濯後の大島紬とシャツ地の布のつれについて検討して欲しいという指摘があった。
女性は夏らしい色合い、素材の着心地の良さ、装飾（リボンの華やかさ）等に満足する評価であった。一方、色落ちや皺が気になると

いう指摘があった。

現在は大島紬の品質検査が厳しいことから問題点は改良されてきていると察する。

今後の課題については大島紬の弱点である襟の摩耗について、実験を行い、その結果を検討して商品化を図りたい。

引用文献

1. 環境庁、<http://www.env.go.jp/>
2. 石橋博、大島紬の研究—経済、科学、デザイン—、鹿児島県立短期大学地域研究所編、1986、p.36
3. <http://www.iisilk.jp/>
4. 日本工業規格 JIS C 9606電気洗濯機、洗い方
5. 日本工業規格 JIS K 3371洗濯用合成洗剤に規定する第1種
6. 日本工業規格 JIS C 9203 電気アイロンの掛け方
7. QTEC 一般財団法人日本繊維製品品質技術センター、QTEC 品質基準（抜粋）

謝辞：鹿児島県地域振興局、鹿児島市産業局、鹿児島銀行地域開発部、城山観光株式会社の職員の皆様には、アンケート調査と商品の試着に多大なご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

西之園君子（鹿児島純心女子短期大学教授）

濱崎千鶴（鹿児島純心女子短期大学准教授）

宮地真奈美（鹿児島純心女子短期大学非常勤講師）